

科目ナンバー	年度・学期	時間割所属・時間割コード	開講年次	単位数	曜日・時限
RDM7-008-81-2	2023通年	医学教育部(20090)	1, 2, 3, 4	2	他
科目名(講義題目)			担当教員		
環境社会医学理論【Environmental and Sociomedical Sciences】(B8)			西谷 陽子, 加藤 貴彦, 松井 邦彦, 副島 弘文, 魏 長年, 大森 久光, 盧 溪		
学修成果とその割合					
1.高度な専門的知識・技能及び研究力……25% 2.学際的領域を理解できる深奥な教養力……25% 3.グローバルな視野と行動力……10% 4.地域社会を牽引するリーダー力……40%					
授業の形態	講義				
授業の方法	質疑応答を重視した講義形式で、Power point, 等を活用する。なお遠隔地の学生や社会人学生等には、補講、集中講義、e-ラーニングにより対処する。英語の講義・英語のテキストを基本とするが必要に応じて日本語での講義・テキストで行う。				
授業の目的	社会医学は、社会的存在としてのヒトのライフサイクルの様々な局面における医学的側面と社会的側面について考究する医学の重要な分野である。ヒトの健康は生態系の環境に規定され、また医学の社会的適用としての保健医療福祉体系によって支えられている。				
学修目標	【A水準】 環境と健康との関わりを理解し、疾病予防・健康増進を含む総合医療の概念を修得し、個人の基本的人権の擁護、社会の安全を維持するための医と法について包括的に学び、社会精神医学、社会心理学的側面から社会における対人関係の基本的概念を学ぶ。 【C水準】 環境と健康との関わりを理解し、疾病予防・健康増進を含む総合医療の概念を修得し、個人の基本的人権の擁護、社会の安全を維持するための医と法について基本的な事項を説明できる。				
授業の概要	本授業では社会医学の広範な領域を、環境保健医学(衛生学)、公衆衛生学、保健医学、法医学、神経精神医学の立場から縦横に論理を展開する。すなわち、環境保健医学(衛生学)では環境の構造、環境と人間の関連、環境の指標と評価、環境基準の設定と維持について、公衆衛生学・保健医学では、健康の概念、予防医学活動をめぐる健康社会の構築とその基本的な手技である疫学について実践的な講義を行う。法医学では、法医学の目的と法実務について総論的な講義を行うとともに、死の原因、分類、医学的、法律的、社会的な側面、および法医学からの社会貢献に触れる。				
各回の授業内容					
回	月日	授業テーマ	内容概略		
1		加藤貴彦【eE-0, eJ-0】	公衆衛生学 社会医学の意義		
2		加藤貴彦【eE-0, eJ-0】	公衆衛生学 疫学について		
3		大森久光【eE-0】	公衆衛生学 一次予防・健診システム		
4	06/23	5時限 西谷陽子【eE-0, eJ-L】	法医学 法医学の定義・目的		
5	06/30	5時限 副島弘文【eEJ-L】	保健医学 動脈硬化について		
6	07/07	5時限 西谷陽子【eE-0, eJ-L】	法医学 法医学と法科学		
7		盧 溪【eE-0】	公衆衛生学 医療統計学		
8		盧 溪【eE-0】	公衆衛生学 研究デザイン		
9	07/28	5時限 西谷陽子【eE-0, eJ-L】	法医学 ヒトの死の社会的側面(1)		
10	08/04	5時限 西谷陽子【eE-0, eJ-L】	法医学 ヒトの死の社会的側面(2)		
11	08/25	5時限 松井邦彦【eJ-L】	総合診療学: 臨床研究、結果の解釈		
12	09/01	5時限 副島弘文【eEJ-L】	保健医学 血液凝固と線溶		
13		5時限 魏 長年【eE-0, eJ-0】	公衆衛生学 健康・ヘルスプロモーション		
14		5時限 魏 長年【eE-0, eJ-0】	公衆衛生学 ライフスタイルの評価		
15	09/22	5時限 副島弘文【eEJ-L】	保健医学 生活習慣と冠動脈疾患		
授業外学修時間の目安	・本科目は、90時間(45時間)の学修が必要な内容で構成されている。授業は30時間分(2h×15コマ)(16時間分(2h×8コマ))となるため、60時間分(29時間分)相当の事前・事後学修(課題等含む)が、授業の理解を深めるために必要となる。				
テキスト	講義にポイントをまとめたプリントを配布する。				
参考文献	・岸玲子他編: New 予防医学・公衆衛生学、南江堂、東京・Maxy-Rosenan-Last: Public Health & Preventive Medicine(14 edit)Appleton & Lange. 1998・疫学ハンドブック、重要疾患の疫学と予防、日本疫学会編集、南江堂、1998・学生のための法医学(柏村征一、恒成茂行ら著)、南山堂、2006年・				
履修条件	特になし。				
評価方法・基準	講義中の質疑応答や、講義終了後に提示されるテーマに関するレポート等により、【授業の目的】に掲げた事項についての理解度を評価する。 15回の講義における小テストあるいはレポートで評価し、上位10回分の点数の平均を成績とする。				
使用言語	「日本語と英語によるミックス」授業(e-ラーニングを含めて英語または日本語で実施する。)				
教科書・資料の言語	「日本語と英語を併用した」テキスト(e-ラーニングを含めて英語または日本語で実施する。)				
実務経験を活かした授業	該当(公衆衛生学、地域医療学、環境医学、法医学で実際にそれぞれの分野で研究・実務をしている内容に関する授業を行う。)				